



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信(No, 87) uniwish14号 (2014年9月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
電話・FAX 0952-28-2077
業務時間 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



佐賀県ユニセフ協会設立 **20** 周年記念号



© UNICEF Burkina Faso / 2014 / Sarkozi



© UNICEF Philippines/2014/JReyna

目 次

1. ユニセフについて…………… 2
2. 20年のあゆみ…………… 5
3. 佐賀県ユニセフ協会役員……………14
4. 全国の地域組織から……………15
5. uniwishの仲間たち ……………18

ユニセフの使命（要約）

ユニセフは、子どもの権利の保護および子どもの基本的ニーズの充足、子どもの潜在的な能力を十分に引き出すための機会の拡大を推進すべく、国際連合総会により委任されています。

ユニセフは「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を規範とし、子どもの権利が恒久的な倫理原則として、また子どもに対する国際的な行動基盤として確立されるように努めます。

ユニセフは子どもの生存と保護、発育が世界の発展、ひいては人類の進歩のための重要課題であると考えます。

ユニセフは政策決定機関に働きかけ、財源や資源を動員することにより、世界各国、とりわけ開発途上国が「子ども最優先」を確実に遂行できるように支援し、各国が力をつけ、国内の子どもとその家族のために適切な政策を立案し、サービスを行えるようにします。

ユニセフは最も厳しい状況にある子どもたち（戦争や災害、極貧、あらゆる形態の暴力、搾取の犠牲となっている子どもたちや、障がいのある子どもたち）が特別な保護を受けられるように努めます。

緊急時においてユニセフは子どもの権利の保護に努めます。国際連合諸機関や人道的機関と協力し、これらの機関がユニセフの緊急援助用設備を使って、子どもや子どものケアをしている人々の苦痛を取り除く支援をします。

ユニセフは中立の機関で、援助対象を差別することはありません。最も厳しい状況にある子どもたちと最も援助を必要としている国が優先して援助を受けます。

ユニセフは各国の事業計画に基づき、女兒と女性が平等な権利を獲得できるように支援し、女性が地域社会の政治・社会・経済発展に全面的に参加できるようにすることを目指しています。

ユニセフは諸機関と協力して、国際社会が目指す持続可能な人間開発の目標達成と、国際連合憲章に宣言された平和と社会発展の理想の実現のために努めます。

ユニセフとは

ユニセフは世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。18歳になるまではみんな子ども。世界のどこに生まれても、すべての子どもがその権利を守られ、持って生まれた可能性を十分に伸ばしながら成長できるように… ユニセフは「子ども最優先」を掲げて、支援活動を続けています。

*ユニセフ (UNICEF: United Nations Children's Fund 国際連合児童基金)

日本ユニセフ協会とは

(公財)日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)は、世界36カ国にあるユニセフ協会(国内委員会)のひとつです。日本においてユニセフを代表する国内委員会として、1955年に財団法人として設立され(2011年に公益財団法人へ移行認定)、民間のユニセフ募金を集めるほか、ユニセフの世界での活動や世界の子どもたちについての広報、そして、「子どもの権利」の実現を目的としたアドボカシー(政策提言)活動を行っています。

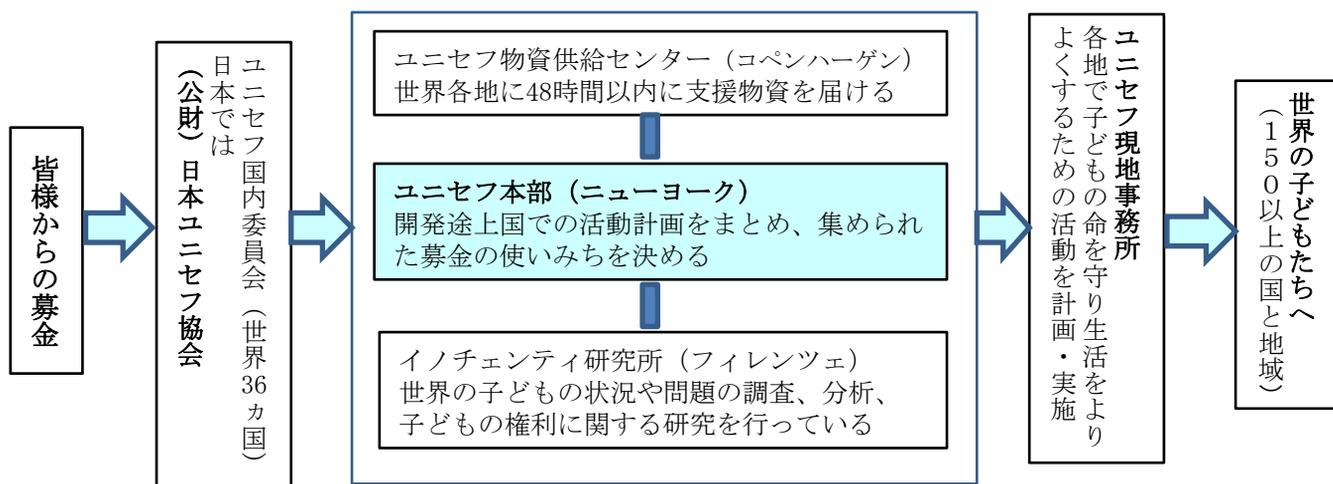
各国のユニセフ協会(国内委員会)は、ユニセフと「協力協定」と呼ばれる公式文書を締結しており、同協定は「ユニセフ協会(国内委員会)は各国の市民社会においてユニセフの利益を代表し、かつ促進する、ユニセフの唯一のパートナーである」と定めています。

日本ユニセフ協会の事業は、ユニセフとの間で行なわれる定期協議の場で 合同計画を作成し、同計画に基づいて実施されています。

佐賀県ユニセフ協会とは

佐賀県ユニセフ協会は、公益財団法人日本ユニセフ協会と「協力協定」を締結し、ユニセフの趣旨に基づき、ユニセフへの協力活動を推進する独自の任意団体です。佐賀県を代表するユニセフ活動の拠点として、また地域の社会・文化に根づいたユニセフの広報・募金活動を実施しています。ユニセフを地域から支える重要なボランティア活動で、ユニセフ協力のネットワークをつくりながら活動を広げています。全国に25の協定地域組織が活動しています。(2014年1月現在)

ユニセフの組織と募金の流れ



ユニセフと「子どもの権利条約」

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。18歳未満を「児童(子ども)」と定義しています。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定しています。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。日本は1994年に批准しました。

ユニセフは、国連人権委員会で「子どもの権利条約」の草案作りに参加しました。国連総会での採択ならびに各国政府による批准を促すため、全世界で広報・アドボカシー活動を行いました。日本ユニセフ協会も、日本政府による批准を求めるキャンペーンを実施しました。

ユニセフは、「子どもの権利条約」が、条約の内容の実施に関する助言や検討などの専門的な役割を与えている国際機関です(第45条)。条約発行後、ユニセフは、本条約の執行状況を確認し参加国に助言を与える「子どもの権利委員会」に参加するとともに、世界150以上の国と地域で実施する支援活動、ならびに日本を含む先進各国でのアドボカシー活動などを通し、条約にうたわれている権利の実現を目指しています。

2014年11月20日、「子どもの権利条約」は採択25周年を迎えます。この25年間に、5歳未満の子どもたちの死亡率は低下し、危険な労働を強いられている子どもの数も減少しました。しかし、こうした成果から取り残されている子どもたちもまた数多く存在します。条約を批准した各国政府は、条約の各条項が規定する子どもたちの権利を実現するために、国内法の整備など具体的な施策を整備しなければなりません。

人権史上画期的な試みには、まだまだ多くの課題が残されています。

「子どもの権利条約」... 4つの柱

① 生きる権利

子どもたちは健康に生まれ、安全な水や十分な栄養を得て、健やかに成長する権利を持っています。



② 守られる権利

子どもたちは、あらゆる種類の差別や虐待、搾取から守られなければなりません。紛争下の子ども、障がいをもつ子ども、少数民族の子どもなどは特別に守られる権利を持っています。



③ 育つ権利

子どもたちは教育を受ける権利を持っています。また、休んだり遊んだりすること、様々な情報を得、自分の考えや信じる事が守られることも、自分らしく成長するためにとっても重要です。



④ 参加する権利

子どもたちは、自分に関係のある事柄について自由に意見を表したり、集まってグループを作ったり、活動したりすることができます。そのときには、家族や地域社会の一員としてルールを守って行動する義務があります。



【資料：日本ユニセフ協会より】

佐賀県ユニセフ協会20年のあゆみ
主な活動をピックアップしました

1993年度

(設立準備会)

- 10月16日 はじめの一步 小城町立桜岡小学校バザーにてパネル展・ユニセフカード頒布
- 12月19日 はじめてのハンドインハンド街頭募金…以降毎年実施
- 12月31日 108コンサートにてパネル展・カード頒布 …以降2000年まで実施 (ホテルニューオータニ佐賀)

1994年度

- 7月4日～15日 写真展「あの頃のあなたに」 (佐賀市役所ロビー)
- 8月5日～6日 栄の国まつりバザー (唐人町) …以降2000年まで実施
- 9月23日 柏木博子 ユニセフチャリティーコンサート (佐賀市文化会館)
- 10月31日 (財)日本ユニセフ協会佐賀友の会設立
- 12月 佐賀玉屋デパートに「ユニセフカード常設コーナー」



1995年度

- 5月17日～22日 「この輝きを未来へ～平早勉 世界の子ども写真展」 (佐賀玉屋)
- 6月17日 ユニセフ講演会「エチオピア・ブータンの現状」 日本ユニセフ協会広報室 間中恵子さん (アバンセ)
- 10月28日 ユニセフ講演会「子どもの権利条約ワークショップ」 日本ユニセフ協会協力事業部 薄井瑞枝さん (アバンセ)

地域のイベントに積極的に参加して、パネル展やユニセフカード頒布、募金活動に取り組む。

1996年度

- 5月3日 鹿島ガタリンピック会場にてパネル展、カード頒布、募金活動 …以降毎年実施 (鹿島市七浦海浜公園)
- 6月1日 ユニセフ講演会「アジアの女性と子ども、そしてユニセフ」 日本ユニセフ協会協力事業部 加藤陽一さん (佐賀新聞社)
- 11月19日～24日 ユニセフ50周年写真展「戦火の中の子どもたち」 (アバンセ)
- 11月20日 写真展・ユニセフの活動紹介 (NHK佐賀放送局)

使用済み切手・書き損じはがき・使用済みテレフォンカードの回収協力依頼に取り組む。

1997年度

- 6月7日 ユニセフ講演会「美しい地球を続く世代に」
岡留恒健さん（佐賀新聞社）
- 10月13日～15日 学校事業部ユニセフキャラバン佐賀県訪問
県庁、多久市立中部小学校、佐賀市立昭栄中学校、城西中学校
- 2月7日、21日 ユニセフ出前授業（佐賀大学文化教育学部附属中学校2年）
- 2月15日 ユニセフ講演会「南アジアの児童労働」
ユニセフバングラディッシュ事務所上級教育担当官 ナルル・イスラムさん
- 2月15日～22日 「南アジアの児童労働」写真展&物品展（アバンセ）
- 3月8日 ユニセフ講演会「アフリカで考えたこと～アフリカの子どもたち女性たちは今～」
柳川国際青少年ロッジ代表 竹井清さん

出前授業に
取り組む。

1998年度

- 4月1日～30日 「児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の
保護等に関する法律（児童買春・ポルノ禁止法）法制化
のための署名キャンペーン
- 10月～12月 「世界から子どもの兵士をなくそう」署名キャンペーン
- 1月15日 ユニセフ講演会「インドでのユニセフ事業について」
日本ユニセフ協会協力事業部 薄井瑞枝さん

通販方式によ
るユニセフ
カードの頒布
を始める。

1999年度

- 5月30日 コソボ緊急支援街頭募金（佐賀玉屋前）
- 6月21日 コソボ緊急支援チャリティーLIVE「コソボの子どもに笑顔を」
*大川市立大野島小学校児童作詞作曲によるコソボの子どもたちへ友情の歌
木原慶吾&スピリッツ（ガイルス）
- 6月26日 ユニセフ講演会「ベトナムの少数民族の子どもに学校を」
時津幸子さん
- 7月24日～31日 日本ユニセフ協会学校事業部
モンゴルスタディーツアー参加 ～モンゴルのマンホールチルドレン～
- 10月31日 佐賀友の会設立5周年記念誌発行

2000年度

9月19日～10月1日 写真展
「20世紀の瞬間～紛争のない世界を世界の子どもたちに～」
(佐賀市立図書館)

2月11日/18日 インド地震緊急募金 (佐賀玉屋前)

「総合的な学習の時間」
の新設により、小・中学校からのユニセフ出前授業の依頼が多くなる。

2001年度

1月14日 ユニセフ講演会
「アフリカのエイズの状況と取組み」
前ザンビア国立大学医学部教授 沼崎義男さん

2月16日 「Let' s unicef」

毎月1回、使用済み切手の整理ボランティアを
佐賀市立図書館で行うようになった。
これにより、使用済み切手への関心が高まる。

「ユニセフチャリティー
バザー」
開催時期と会場を変更
この年より、5月に佐
賀玉屋アーケードで実
施するようになった。

ホームページ
開設

2002年度

5月18日 「ユニセフ デー」 (本庄公民館)
学校5日制の導入に伴い、毎月第3土曜日に
ユニセフの体験的学習を実施



2003年度

5月25日 ユニセフのつどい「知りたい、聞きたい、アラブの文化」
これまで座学中心の「つどい」であったが、参加者も一緒になって交流できる場
にしたいと内容を検討、以降交流の場が増えた。

9月3日～9月14日 パネル展「イラクの子どもたちの願い～イラク北部スーレマニアの子どもたちの絵～」

2004年度

4月10日 財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会から
財団法人日本ユニセフ協会佐賀県支部へ移行
これまでの「理事」と新たに「評議員」制度も。
活動の場が広がる。

日本ユニセフ協会
佐賀県支部へ移行

10月22日



キャロル・ベラミー講演会
「～子どもの未来とユニセフ～」
国連ユニセフ本部事務局長 Carol Bellamy氏
(熊本市市民会館)
主催：ユニセフチャリティーキャロル・ベラミー講演会
実行委員会

7月24日～31日 日本ユニセフ協会団体・組織事業部
ネパールスタディツアー参加

1月23日 スマトラ沖地震・津波緊急募金活動 (ジャスコ佐賀大和店)



2005年度

10月23日 パキスタン大地震緊急募金活動 (ジャスコ佐賀大和店)

12月18日、23日 日本ユニセフ協会創立50周年記念事業
27回ユニセフ ハンド・イン・ハンド

2月4日 ワークショップ 「世界がもし100人の村だったら」 (ワークショップ版)
「文字が読めないということ」・「大陸ごとに別れてみよう！」 (佐賀市アバンセ)



2006年度

6月23日 ジャワ島地震緊急募金活動 (ジャスコ佐賀大和店)

7月30日 夏休み親子交流会inプラザ (iスクエアビル)
「こどももおとなも遊び・遊ぶ・遊べ」 ～ユニセフすごろくで遊ぼう！～



2007年度

- 7月22日 ユニセフのつどい
「'07夏 ~若い力が未来をつくる~」 (アバンセ)
パネルディスカッション
「地球市民として明日を拓く」



2008年度

- 5月17日 ミャンマー サイクロン緊急支援バザー
(佐賀玉屋デパート南館西側アーケード)
- 8月10日 Peace & Unite unicef ~saga~
アフリカナイト トーク エンド ライブ (佐賀市 浪漫座)
「アフリカの子どもの笑顔に会う」
講師：早川千晶さん
アフリカンドラム・ライブ：「響け！アフリカの鼓動」
演奏：スワレ・マテラ・マサイさん 大西匡哉さん



2009年度

- 9月26日 設立15周年記念事業「100人でする100人村 in 佐賀」
(佐賀大学文化教育学部附属小学校)
ファシリテーター：桜井高志さん
(桜井・法貴グローバル研究所代表)
佐賀県内のみならず、千葉県・愛媛県・鹿児島県・宮崎県・
大分県・福岡県などからの参加もあり、116人の村ができた。
- 10月15日 「世界手洗いの日」佐賀県との協働で取り組む。以降、継続。
ユニセフの「世界手洗いの日」プロジェクトに合わせて、新型
インフルエンザの予防啓発活動に取り組んでいる佐賀県危機管
理広報課が、県内16市町40施設の幼稚園・保育園と連携して、
子どもたちに正しい手洗いの大切さを伝えた。
佐賀市の保育園ではクイズで、唐津市や鳥栖市の保育園では手
洗いダンスで正しい手洗いの仕方を勉強した。県内5つの保健
福祉事務所ごとに各地区のショッピングモールなどで、「新型
インフルエンザの予防は、手洗い・うがい・せきエチケット」
と『10/15世界手洗いの日』のロゴの入ったティッシュを配っ
て広報活動をした。
- 1月24日 ハイチ大地震緊急募金 (ゆめタウン佐賀)
2010年1月12日にハイチ共和国で起こった大地震。
人口密度が非常に高く、「良い」時でも安全な飲料水や衛生環
境の確保が容易ではない地域を襲った大地震。こうした状況の
なか、特に、最も弱い立場に置かれてしまう子どもたちへの緊
急支援募金に取り組んだ。以降、学校や団体等からたくさん
のご協力をいただいた。



2010年度

9月18日 トヨタ紡織九州株式会社ハンドボール部“レッドトルネード”によるユニセフ協力活動が始まる。以降、会社本体からの協力もいただく。

11月20日～21日 第62回全国人権・同和教育研究大会佐賀大会において「子どもの権利条約」パネル展開催（佐賀市文化会館）

2月12日 “春だ！集いだ！市民活動まつり～愛ある夢をiスクエアから”ワークショップ「before ; after ～村に井戸ができた～」& 「ユニセフチョボラ」

3月21日 東日本大震災緊急募金
2011年3月11日（金）14時46分に発生した東日本大震災は、岩手県・宮城県・福島県を中心に甚大な被害をもたらした。ユニセフは50年ぶりとなる日本での支援活動を決定。佐賀県でもこの日以降、様々な場で東日本大震災被災地の子どもたちの支援活動に取り組んだ。



2011年度

4月1日 日本においてユニセフを代表するユニセフ協会（国内委員会）としての財団法人日本ユニセフ協会の公益財団法人への移行に伴い、公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織佐賀県ユニセフ協会へと名称変更

5月22日 第18回ユニセフチャリティーバザー
「東日本大震災緊急支援バザー」佐賀玉屋デパートにて



公益財団法人日本ユニセフ協会
協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会へと
名称変更



佐賀県ユニセフ協会
ロゴマーク決定
unicef + wish
ユニセフの願い

10月8日～10月15日 ユニセフ 東日本大震災報告写真展（佐賀市立図書館中央ギャラリー）



3月11日 ユニセフ学習会 ワークショップ
～東日本大震災からはじまる学び～ (アバンセ)

10月11日～17日 「3・11の子どもたち ユニセフ東日本大震災報告写真展」 (佐賀市立図書館2F)



10月14日 ユニセフのつどい ～アフリカを知る・アフリカに学ぶ～ (佐賀市立図書館多目的ホール)
「アフリカ近っとツアー」講師 JICA協力隊OBのみなさん
「アフリカ取材から見てきたこと、今伝えられること」講師：大津司郎さん



10月15日 (月) 「世界手洗いの日」 ルー大柴さんが佐賀を訪問 (佐賀市立高木瀬小学校)



10月23日～24日 日本ユニセフ協会学校事業部 ユニセフ・キャラバン・キャンペーン
(佐賀県庁 佐賀市立赤松小学校 白石町立白石中学校)



2013年度

- 3月10日 ユニセフ写真展“EYE SEE TOHOKU”～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～（アバンセ）
ユニセフ講演会
- ①「東日本大震災における子どもの心のケア」
講師：三ヶ田智弘氏 肥前精神医療センター・大分子ども療育センター小児科医
- ②「フクシマは、今・・・」
講師：佐藤一夫氏 福島県ユニセフ協会常務理事・事務局長



- 3月11日～3月15日 ユニセフ写真展“EYE SEE TOHOKU”～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～
佐賀県庁新行政棟1階県民ホールでも開催

- 8月26日 ユニセフ講座（平成25年度佐賀大学教員免許状更新講習）（佐賀大学本庄キャンパス）

- 10月6日 ユニセフのつどい2013～世界の子どもの日 in SAGA～（佐賀市立図書館2階多目的ホール）
- ①一緒にあそぼう！ゲスト：マリアさん(ペルー)/モンタさん(エジプト)/荒木千尋さん(日本)
②これ、なあに？ ファシリテーター：佐賀県ユニセフ協会 白井恵里子
③Let's enjoy music! 演奏：佐賀ユースオーケストラのみなさん



- 11月2日～4日 福島の子どもの保養プロジェクト in さが（コープさが生活協同組合との共催）
さがの感動体験ツアー～がばいうまか。がばいたのしか。がばいすごか。～
吉野ヶ里歴史公園、佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場、富士町市川地区、
鹿島市七浦地区



- 11月16日 フィリピン台風緊急街頭募金活動（佐賀玉屋前）



数字で見る20年

		募金総額	カード&ギフト頒布額	募金活動 (街頭・イベント会場)	写真 パネル展	出前授業・ 事務所での ユニセフ学習	機関紙発行	
1	1994年	1,654,264	599,185	8	6	0	友の会便り NO,1	
2	1995年	1,594,317	1,083,910	13	15	0		
3	1996年	2,311,199	1,123,140	11	13	0		
4	1997年	2,672,003	1,087,650	9	8	2	}	
5	1998年	1,920,585	1,271,820	7	8	0		
6	1999年	2,620,466	1,474,150	10	8	5		
7	2000年	1,759,387	1,388,330	12	8	11		
8	2001年	2,292,545	1,520,365	12	4	12		
9	2002年	2,074,797	1,534,760	10	10	15		
10	2003年	2,468,105	1,489,570	12	11	16		NO,46
11	2004年	3,874,639	1,128,410	13	12	20		支部通信 NO,1
12	2005年	3,517,868	1,002,130	17	15	25		
13	2006年	4,781,697	918,250	16	15	24		}
14	2007年	5,316,902	801,220	15	16	25		
15	2008年	5,557,205	796,320	16	15	22		
16	2009年	6,410,738	742,680	15	12	24		
17	2010年	6,302,653	798,680	23	11	20	NO,27	
18	2011年	5,805,592	771,570	19	9	17	uniwish NO,1	
19	2012年	4,254,349	622,290	18	9	32		
20	2013年	5,697,836	572,860	24	10	28	}	
								NO,10
総計		72,887,147 円	20,727,290 円	280 回	215 回	298 回	83 回	

(※出前授業：小・中・高校生対象の学習のみを記載。長崎県/福岡県等での授業を含む。)

顧問	古川 康	佐賀県知事	評 議 員	相川 司	連合佐賀会長
	秀島 敏行	佐賀市長		相原 宏	(社)佐賀青年会議所理事長
会長	中尾 清一郎	佐賀新聞社代表取締役社長		石戸 久代	毎日新聞佐賀支局長
副会長	牧 正興	福岡女学院大学大学院教授		今泉 泰子	今右衛門役員
				浦 肇	日本バプテスト連盟 佐賀キリスト教会牧師
専務理事	吉原 眞紀子	医療法人智仁会夢館館長		香月 道生	佐賀商工会議所副会頭
常務理事	太田 記代子	小児科医		北川登美子	国際ソロプチミスト佐賀西部 会長
	角田 研三	(前)佐賀市立本庄公民館 館長		木原 慶吾	アーティスト
理事	秋山 昭雄	秋山歯科医院院長		佐藤 三郎	国立大学法人佐賀大学 産学・地域連携機構副機構長
	泉 俊彦	サガテレビ代表取締役		関谷 静司	佐賀ギター音楽院 院長
	枝吉 和彦	日本ボーイスカウト佐賀県 連盟コミッショナー		添田 恭正	読売新聞佐賀支局長
	音成 日佐男	旅館あけぼの代表取締役社 長		田中丸善亮	佐賀玉屋会長
	堤 いと代	ガールスカウト日本連盟佐 賀県連盟長		棚町 幹雄	佐賀市立図書館館長
	手塚 秀司	佐賀県小中学校校長会会長		長野 益徳	九州電力株式会社執行役員 佐賀支社長
	馬場 三佳	佐賀市国際交流協会		西田 慎介	朝日新聞佐賀支局長
	東島 正明	佐賀市教育委員会教育長		二宮 洋二	佐賀共栄銀行取締役頭取
	干潟 由美子	コープさが生活協同組合会 長		浜崎 浩丈	NHK佐賀放送局局長
	平山 又一	佐賀県高等学校長協会会長		原 ひろ子	J A佐賀県女性組織協議会 会長
	佛淵 孝夫	国立大学法人佐賀大学学長		宮川 善裕	浄土真宗本願寺派佐賀教区 教務所長
	山口 光之	佐賀中部保健福祉事務所 所長		村上 文	佐賀県立男女共同参画センター 佐賀県生涯学習センター 館長
	吉田 謙太郎	佐賀県PTA連合会理事	森 和幸	洋画家 ヴァイオリニスト	
監事	飯盛 克己	佐賀リハビリテーション病 院事務長	矢ヶ部正文	NHK文化センター講師	
	西村 克己	西村会計事務所所長	湯川 佳重	立正佼成会佐賀教会教会長	
			渡辺 徹	ホテルニューオータニ佐賀 取締役支配人	

北海道ユニセフ協会

20周年おめでとうございます。参加できずに残念です。

岩手県ユニセフ協会

設立20周年おめでとうございます。地道な活動の積み上げで今日を迎えられ心からエールを送ります。東日本大震災に対しての多くの皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。

宮城県ユニセフ協会

設立20周年おめでとうございます。多くの皆様のお支えがあってこの日を迎えられたことと存じます。世界の子どもたちが等しく平和に暮らせますよう更なる広がりをお祈り申し上げます。

茨城県ユニセフ協会

佐賀県ユニセフ協会、20周年おめでとうございます。

これからも世界の子どもたちのたくさんの笑顔のためにますますのご発展を祈ります。良き先輩としてご指導ください。佐賀県におけるユニセフの活動を佐賀県内外に発信してください。

埼玉県ユニセフ協会

設立20周年、誠におめでとうございます。

世界の子どもたちの明るい未来のために皆様には引き続きご活躍くださいますようお願い申し上げますとともに、佐賀県ユニセフ協会のますますのご発展と皆様の一層のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

千葉県ユニセフ協会

設立20周年おめでとうございます。

20年の歴史の中では様々なご苦労もあったかと思えます。世界の子どもたちが笑顔でくらし続けるように力を合わせてまいりましょう。20周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

神奈川県ユニセフ協会

設立20周年、誠におめでとうございます。

長きに亘る貴協会の活動に心より敬意を表しますと共に、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

岐阜県ユニセフ協会

佐賀県ユニセフ協会設立20周年記念式典を開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

長年にわたり、世界の子どもたちへの支援を積極的に続けられ、岐阜県ユニセフ協会にとりましては、貴協会の教を範としながら歩んでいます。「菊川伶トークライブ」など、とても魅力的な記念式典ですが、残念ながら出席できません。これからも良き先輩としてご鞭撻くださいますようお願いいたします。本日は、誠におめでとうございます。

石川県ユニセフ協会

設立20周年おめでとうございます。記念式典に出席することができませず残念です。当協会は設立して2年で、まだまだです。これからもご指導いただければ幸いです。このたびは本当におめでとうございます。

三重県ユニセフ協会

20周年おめでとうございます。

長年にわたるご活動ご苦労様です。貴協会の一層のご発展ご活躍をお祈り申し上げます。

奈良県ユニセフ協会

佐賀県ユニセフ協会の皆様、20周年おめでとうございます。関係者の皆様にお慶び申し上げます。

長年のご成果は世界中の子どもたちへの深い想いに加え、佐賀のユニセフ仲間同志の助け合いの精神、時にははかり知れない根気力もあったからこそその賜物だと思います。

その心を活かし皆様の結集力をばねに、更なるご発展をはたされますようお祈り致しております。

本当におめでとうございます。

鳥取県ユニセフ協会 会長 豊島良太

佐賀県ユニセフ協会設立20周年心よりお祝い申し上げます。世界の子どもたちの未来に向けて、ますますのご発展をお祈りいたします。

鳥取県ユニセフ協会

佐賀県ユニセフ協会設立20周年おめでとうございます。中東では紛争、アフリカではエボラ出血熱の流行、日本では災害続きなど、世界中の子どもを取り巻く環境が厳しくなっているように感じます。

このような中、一人でも多くの子どもたちの笑顔が見られるよう、これからも貴協会のご活躍を願っております。

広島県ユニセフ協会

20周年おめでとうございます。長きにわたり素晴らしい活動をなさってこられた佐賀県ユニセフ協会様に少しでも近づけるよう、広島も頑張ってお参ります。当日はイベントがあつて参加することができませんが、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

愛媛県ユニセフ協会

この度は、設立20周年おめでとうございます。

子どもたちの未来の為に、これからもお仲間として一緒に活動できることをうれしく思います。

久留米ユニセフ協会

貴協会20周年を心よりお慶び申し上げます。

隣接する（公財）日本ユニセフ協会協定地域組織として、これからも恵まれない子どもたちのために共に活動できればと思っています。

今日までのご関係各位のご尽力に敬意を表し、益々のご発展をお祈り申し上げます。

宮崎県ユニセフ協会

設立20周年おめでとうございます。

これからも素晴らしい先輩としてよろしくご指導いただきますようお願いいたします。

貴協会のますますのご発展を祈念しております。

鹿児島県ユニセフ協会

設立20周年誠におめでとうございます。

貴協会の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

北海道ユニセフ協会 会長 三宅浩次

設立20周年を心よりお祝い申し上げます。長年にわたる皆様のたゆまぬご尽力にあらためて敬意を表しますとともに、いっそうのご発展をお祈り申し上げます。

千葉県ユニセフ協会

20周年おめでとうございます。佐賀県ユニセフ協会の皆様は、学習会でいつも工夫された活動をなさっていらっしゃいます。学ぶこと、伝えることでユニセフの輪が広がっていくように実践されていること、わたくしたちも勉強になります。

世界の来どもたちの笑顔が広がっていくように、また、今年からご一緒しているインドの女子教育の指定募金もともに頑張ってみましょう。佐賀県ユニセフ協会のますますのご発展と皆様の一層のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

神奈川県ユニセフ協会 会長 鈴木邦雄

設立20周年を迎えられ心よりお祝い申し上げます。永きに亘り世界の子どもたちの支援に貢献されてきた皆様の活動を讃えるとともに、今後益々のご発展とご活躍を祈念しております。

石川県ユニセフ協会

設立二十周年、おめでとうございます。貴協会のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。また、今後も私たち、後続の県協会へのご指導を宜しくお願い申し上げます。

大阪ユニセフ協会 会長 出田善蔵

佐賀県ユニセフ協会創立20周年、おめでとうございます。貴協会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

京都綾部ユニセフ協会 会長 松本哲郎

佐賀県ユニセフ協会ご設立20周年、誠にありがとうございます。全ての子どもたちの笑顔があふれ、健やかに育ち、安心して生活することのできる世界が実現することを願いたしますとともに、貴協会のますますのご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたします。

兵庫県ユニセフ協会 会長 竹本成徳

設立20周年おめでとうございます。これまでの皆様の活動を力に「子どもたちにとって最も良いこと」を実現するユニセフの輪がますます広がることを祈っています。皆様の活動に心からエールを送ります。

広島県ユニセフ協会 会長 浅原利正

設立20周年おめでとうございます。これまでの歴史の上にさらにご発展されることをお祈り申し上げます。

香川県ユニセフ協会 会長 長尾省吾

20周年おめでとうございます。これからも地域組織の中心となって頂き、「世界の子ども達のために」ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

祝電 鹿島市長

佐賀県鹿島市 市長 樋口久俊

佐賀県ユニセフ協会設立20周年、誠にありがとうございます。佐賀県ユニセフ協会「設立20周年記念式典」が盛会に開催されますことを心からお喜び申し上げます。貴協会の日頃からの並々ならぬご尽力に対して深く敬意を表しますとともに、今後のご発展をお祈り申し上げます。



専務理事 吉原 眞紀子



「佐賀でもユニセフの灯を……！」と、この地でユニセフの活動を始めて21年がたちました。支えてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

私がなぜこのような活動を始めたのか話し出すと長くなりますが、結婚前に勤務していた会社の上司からたくさんの影響を受けたことが大きいです。世界を巡る仕事をしていました。児童労働に従事する子どもの姿もよく見かけました。花の都のパリでは子どものスリに財布を掏られかけたことも…。薄汚れた顔に異様に光る瞳は紛れもなくスリの目でした。決して豊かではなかったけれど愛情いっぱい家庭で育った身には非常な衝撃でした。

長じて自分が結婚して子育てをしている時、赤ん坊のかわいらしさに心を奪われました。けれども子育ては順調な時だけではなく、体が弱くて病気にはとことん悩まされました。救急車で運ばれたこともありました。ぐったりした娘を抱えて息絶えてしまったらと頭まで真っ白になったことも…。

当時、開発途上国では2秒に一人の割合で、子どもが予防注射やワクチン・手洗いなど簡単に予防できる病気で亡くなっていました。幸いにしてわが子は元気に育ったけれど、子どもが死ぬというその絶望的な恐怖が現実となっている親も、亡くなっていく子どもの数だけありました。子どもを亡くす親の気持は他人事とは思えませんでした。

当時の死亡原因のトップに下痢がありました。子どもは下痢そのもので死ぬというよりも、下痢による脱水症で命を落としていました。脱水症から救うにはORS（経口補水塩）1袋10円（現在は8円）を、1リットルの湯冷ましに溶かして下痢が止まるまでひと匙ずつ辛抱強く飲ませることで腸内の吸水力は25倍も高まり子どもを死なせないですむことを知りました。10円で助かる命があるということ、今、目の前で子どもが苦しんでいて、その子の命が10円で救えるならその10円を惜しむ人はいないのではないかしら、そのことを佐賀のみなさんに伝えていきたいと思いました。子どもの死亡数が減少したら人口爆発にも歯止めが働くということも知りました。振り返れば、体の奥から突き上げるような思いに押されて手紙を書きまくった若かりし日の私がおりました。

この間、本当にいろいろなことがありましたが、諦めなければ道は拓けるということを知った21年間でもありました。活動を始めて一年後、ひとつずつ問題をクリアして、初の県単位の地域組織「日本ユニセフ協会佐賀友の会」として発足できた時の感激は今でも忘れられません。

それが今年で20年になることから、20周年記念事業を計画することになりました。どなたにおいでいただくかの話になった時に浮かんだのが2年前に視た映像でした。菊川怜さんが2年前にアフリカのチャド共和国を訪問された時の報告がテレビ番組で放映されたのでした。当時日本中の目が東北に向いていた時、彼女の果敢な行動はほとんど注目されることはありませんでしたが、その視察旅行の際にチャドの子どもたちへの授業をなさり、その体当たりの行動とその時のチャドの子どもたちのいきいきした表情がとても印象的だったのです。でもこの佐賀の地に菊川怜さん?! どうやって?! 無謀なことに思えた私たちの願いでしたが、中尾会長やSTSサガテレビの泉社長のお骨折れもあり、菊川さんへのコンタクトをつけていただきました。最初は到底不可能と思えた菊川さんの来佐、そしてトークライブが実現できる運びとなったのです。

活動を続けてきた過程で、ユニセフに関わらなかつたら決して出会うことがなかった素晴らしい仲間との出会いに恵まれました。夢は諦めなかつたら、追いかけて続けたらきっと実現できるのだということも実感させていただきました。よく「まだやってるの?」と言われるのですが（苦笑）やめる気はありません。ユニセフ活動は私のライフワークです。そしてこれをぜひ続く世代に受け継いでいってほしいと心から願っております。

石田伸弘（68歳）

このユニセフのボランティア活動に携わって早や5年になる。切っ掛けは、会社勤めをしていた40歳のときから酒の付き合いを月に4～5回のうち2回は行ったつもりで20年間ユニセフに寄付をしていたことから、定年後にはユニセフに関われたらと思い門をたたいた。

私たちは、毎日当たり前のようにきれいな水を飲み、顔や手を洗い、食事をいただき、歯を磨き、トイレの水を流し、風呂に入っているが、この当たり前のことが出来ない人たちが地球上に何億人といふことに驚き、5歳の誕生日すら迎えられずに亡くなっている子どもたちが1990年時点で1千万人超もいることを知ったとき、自分は贅沢をしていると捉え、何か人の為に僅かでも手助けできればと関わってきた。

日常は事務所での支援作業だが所外でのイベント行事にも参加してスタッフの方々と楽しく活動させていただいている。今回の20周年という節目に縁に触れさせて頂いたことに感謝したい。体の許す限り努めたい。

白井恵里子

「引っ越して環境が変わっても、国際協力の世界に携わっていたいな」JICA職員として東京の本部で勤務をしていた私は、結婚を機に退職し佐賀へ移ることが決まってから、ずっとこう思っていました。その思いを実現させてくれたのが、他にもない佐賀県ユニセフ協会だったのです。佐賀へ越してきた年の秋に、佐賀県ユニセフ協会の門をたたいて以来、事務局長はじめボランティアスタッフのみなさんは私のことを快く迎え入れてくださり、そして必要としてくださいました。事務局長補佐として、事務仕事、イベントの企画運営、募金活動など幅広いお仕事のお手伝いをさせていただき、私は佐賀での自分の居場所を見つけたような気持ちになりました。ボランティアとして佐賀県ユニセフ協会に関わることで、逆に自分が助けられていたのです。

今年の5月、長女が誕生し、出産前のように定期的にボランティア活動ができなくなってしまいました。しかし、「赤ちゃん連れて、いつでもおいで」と言ってくくださる皆さんのおかげで、少しずつボランティア活動を再開しようという気持ちになっています。娘が生まれたことで、ユニセフが守ろうとしている子どもたちや母親たちの気持ちを以前よりは理解できるようになった今、より一層強い信念をもって活動ができる気がします。

私の居場所をつくってくれた佐賀県ユニセフ協会に、これからもっと恩返しができるように。そしてその結果、少しでも世界の子どもたちを救う一助になれるように。

今日も新米ママ、奮闘します！！

団野そのこ

ユニセフでボランティアとして活動するきっかけは「気軽に遊びに来て」という友人の言葉でした。

その後、ユニセフで、「開発途上国の中には水道や井戸がなく、泥などで濁った川の水などを生活用水に使い、一生透明な水を見ることがない人達がいる(つまりただの下痢でも多くの子ども達が亡くなってしまう)」ということを知り、私達の生活との違いに衝撃を受けました。そして微力ながら何かできることをしなければと感じました。

さらに活動を始めてから7年の間に東日本大震災をはじめ、世界各地で大災害が次々と起こり、その思いがさらに強くなりました。

是非これからもみなさんと力を合わせて、ユニセフが必要とされない、平和で子ども達が安心して暮らせる世界を目指して活動していきたいと思えます。

高原陽子

大学院の卒業式で隣に座った素敵な女性。彼女がユニセフのボランティアをしていると聞き、私とユニセフの歩みが始まりました。以来、仕事が休みの日に小学校などで出前授業をさせていただき早5年。日常生活に「あと一歩だけ誰かのために頑張る」精神で世界のことを子どもたちと一緒に学んできました。

活動する中で、私の最大の課題は“ボランティアと自分”というところ。現在はよちよち歩きの子どもを追い回す育児真っ最中。「今は自分のことで精一杯！」の一言で活動は途切れるもの。しかし、無責任ではいけないし、自分の欲望を満たすための居場所であってははいけません。…とわかってはいても、優しい仲間たちに甘えながら私はいまもここにいます。

今年で20周年を迎える佐賀県のユニセフ。当初からのスタッフも沢山います。彼らに、そしてユニセフに救われていたのは、あと一歩だけ！と事務所の玄関のドアを開けていた私だったようです。

吉原 麻里

佐賀県ユニセフ協会の始まりは、一人の主婦の「世界の子どもを守りたい」という思いでした。その思いに共感して集まったのは子育て世代の女性が大半でした。世界の子どもへも母性が芽生えたのでしょうか。

私は9歳の時にユニセフに出会いました。開発途上国では2秒に1人の割合で、子どもが下痢などのありふれた病気で亡くなっていることに驚きました。（※今は5秒に1人）。物価の違いもあり、必要な治療費は微々たるものでした。「私がおやつを我慢したら誰かの命が助かるかもしれない」と募金を始めました。受験勉強や就職などで忙殺された時期も、できる協力を続けました。可愛くて募金にもなるユニセフカードを愛用したり、年に一度だけ街頭募金に参加したり…。

気付けば自分自身も30歳の子育て世代になっていました。

世界的にはいつになっても「戦後」は来ないし、自然災害も毎年のように起こります。継続は力なり。これからも続けていこうと思います。

J. M

二人の子どもが家から離れ、何か新しくできることを探しているとき、新聞でユニセフのボランティア講習の記事を見つけたのがきっかけで、ユニセフのボランティア活動に携わるようになりました。

優しい事務局の皆さんに支えていただき、非力ながらも楽しくユニセフの活動をしています。

キラキラ輝く子どもたちの笑顔のため、何か少しでもお手伝いしたいと思って始めたことですが、今では反対に、私が子どもたちの笑顔に元気をもらっている感じです。

小さなことの積み重ねではありますが、子育て後にまたやりがいのあることに携わることができ、非常に嬉しく思っております。ありがとうございます。

石井由起子

私は小学校の頃佐世保に住んでいました。給食の脱脂粉乳は体にとっても良いと聞いていましたが、私は飲むのが嫌いでした。アメリカからいただいていると思っていましたが、高学年になってユニセフからの支援であるということを知りました。

時が過ぎ、ユニセフ活動に出会うことができました。大したこともできない私ですけれど、活動をしている姿、日々の生活の過ごし方を周りの人が見てくださり、理解してくださっています。そのことにより、日本ユニセフ協会の賛助会員に入ってくださいました。ハンド・イン・ハンドのときは、1年間ためておいたお金を募金してくださいます。それが何年も続いています。また、使用済み切手の整理もご協力いただいています。それも何年も続いています。

今までに出会った方に感謝し、これからどのような方と出会うか楽しみです。

良い人生の送り方をしていけるのもユニセフスタッフの仲間がいるからこそです。20年の間には家庭の中も大変なこともありましたが、私なりに乗り越えております。

これからもユニセフ活動に微力ではありますが、協力させていただきます。

M. T

夫の転勤に伴い佐賀に転居してわずかひと月足らず、ほんの数分の立ち話で佐賀県ユニセフ協会との出会いとなり、一年半余りとなりました。スタッフの皆さんに活動についていろいろ教えてもらいながらの一日は楽しく過ごせる時間です。

まだまだ紛争の続く国、災害にみまわれた国、子どもが教育を受けられない国など、ユニセフ活動に参加するまでは大して関心も持たずにいました。

小さな活動が、人と人とのつながりが、大きな強い力になっていくと、月日の流れと共に感じています。「ボランティア」という一つの言葉にはたくさんの活動があり、広く遠い世界の子どもたちに向けて熱い思いを持っての活動であることと知りました。

自分のできることはあまりにも微力でもどかしくもありますが、少しずつでもお手伝いできればと思っています。

江越 浩

ユニセフ会員になった動機は、広島で開催されていた写真展で見た一枚の写真です。日本がユニセフから支援を受けていた給食の粉ミルクを大事そうに飲んでいるおっぱ頭の子どもが、写真の中から「今度は日本が支援をする番ですよ。」と呼びかけているように思ったときでした。

佐賀に帰郷してから、ハンドインハンドのボランティアを募集しているのを知り、当時の佐賀友の会を訪問しました。そこで、ユニセフは緊急支援ばかりではなく子どもの権利条約の4本柱「生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利」を実現するために活動しているということを知りました。

初めての街頭募金活動は佐賀大学南の元ジャスコ佐賀南店でした。募金箱を持って立ってはみたものの声が出ません。でも、嬉しそうに募金をしてくれた人からもらった「頑張ってるね。」の言葉と、小学生ボランティアの元気な姿を見て勇気をもらい、声が出せるようになりました。

これからもかけがえのない子どもたちの命と健康と未来を守るため、楽しい仲間と共に微力ながらもボランティアを続けたいと思います。

山屋 満津江

1995年、吉原さん、富崎さんとの出会いから私のユニセフボランティアが始まりました。佐賀を離れる2003年までの8年間、お二人の素晴らしい生き方に感動し、傾倒し、今に続いています。現在はホームページ担当としてお手伝いをさせていただいています。

活動を続けるうちに県内でのネットワークを広げるためにはホームページが不可欠と考えるようになっていた頃、日本ユニセフ協会から「地域組織のホームページ作成」に関するガイドラインが提示されました。2001年のことです。一介の主婦にとって、嬉しい勉強の機会をいただいた思いがしました。テキスト片手にホームページを作っていきました。手作り感満載のホームページが出来上がりました。

2003年からは、イベントごとに原稿や写真をメールで送っていただいていますので、こちらではページを整え更新するだけですが、いつも皆さんの傍にいたように気持ちにさせていただいています。

これからも共に歩んでいきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

T. Y

「あの時のミルクは、ユニセフの支援物資だったのだ。」

幼稚園の給食で出されていたミルクの味を、ボランティアとしてユニセフに関わって改めて思い出しました。

私が生まれた年に、戦後の日本へのユニセフ支援が開始されました。それから15年間も続けられ、東京オリンピックを開催できるほどに日本は発展したのです。

同時に日本の子ども達は、戦後の日本を復興し発展させる原動力として、成長できたのだと思います。

世界には紛争・気候変動・自然災害・貧困・病気・性差別といった様々な理由で、困難な状況にある大勢の子ども達が、ユニセフの支援を必要としています。彼らが衣食住の心配をすることなく、安心して学校に通い、自分の国を支える大人に成長できることを願い、微力ながらこれからもお手伝いさせていただきたいと思っています。

原 里美

養護教諭を定年退職し、これから何をしようかと考えていたときに、富崎さんとあるイベントの「自己紹介ゲーム」で偶然の出会いをしました。それからボランティアの一員として微力ながら活動しています。

私は、現在火曜日が活動日で、会員の皆様との活動や会話に楽しい時間を過ごさせてもらっています。

先日は、ある中学校の出前授業のお手伝いに行きました。中学生の真剣なまなざしに感動を受け、学習講師への意欲が出てきました。

これからもユニセフとの関わりを大切にしていきたいと思っています。

橋本 幸子

30年前、アフリカでは大規模な飢餓が発生し、痩せ細った幼い子や悲しげな母親のようすが連日のように報道されていました。その頃、私には乳飲み子がいて、ニュースが流れているそばで授乳をしていました。そして、一人では飲みきれない母乳を搾乳しては毎日捨てていたのです。なんともったいない事だったでしょう。

あのとき、アフリカの赤ちゃんに母乳を分けてあげられたらという思いは、私の心の片隅にずっと残っていました。ですから、20年前、日本ユニセフ協会佐賀友の会の設立を知った時にすぐに入会し、事務局の仕事を手伝うようになり、現在に至っています。

事務局スタッフは年代も経歴も様々ですが《生きるのも困難な環境の子ども、弱い立場の子どもたちを何とかしたい。みんな笑顔になってほしい》という共通の思いを持っています。

この仲間との出会いは私にとってはかけがえのない宝、元気の源になっています。

M. H

私とユニセフとの出会いは15年近く前になります。年に一度の暮れの街頭募金活動に参加して以来のことです。

退職を機に、佐賀県ユニセフ協会を立ち上げられた吉原さんに「よかったら週に一度、事務局へ顔を出してもらったらいいけど…」と、お誘いを受けました。事務局へ…と思うと足が向かずにいましたが、再度「皆さんとてもいい方たちで、思いが一緒だからお友だちになれると思うよ。」と言葉かけをしていただきました。

そこで、これからの人生、何かをしたいと思う気持ちもあり事務局へ行く決意をしました。その後すぐに、皆さんと不思議と打ち解け合い、会うのが楽しみになりました。弁当持参のランチタイムは楽しいお喋りで笑いがあふれ、ボランティア活動も5年目を迎えています。

書損じはがきや使用済み切手の整理、イベントやバザーへの参加などを通して、それが世界の子も達への支援につながっていると思うと頑張れる源になっています。

これからも、自分のできることに参加して、何か一つでも協力できればと思っています。

事務局長 富崎鈴代

お陰様で「きょうよう」と「きょういく」があります。いえいえ、そんな!(^^)!

「教養」ではなくて「今日、用」があり、「教育」ではなくて「今日、行く」ところがあるのです。高齢者にとってこの二つはとても大切だと聞いたことがあります。ユニセフのお蔭で私にはこの二つがあります。

50歳の節目のときに来し方を振り返り、これまでご縁のあったたくさんの子もたち何らかの形でご恩返しをしたいと考えていたちょうどそのとき、ユニセフ支援の地域組織を作ろうとしている吉原さんと出会いました。直接関わった子どもたちの代わりに、困難な状況下にある世界の子もたちに関わることでご恩返しを…と活動を始め、今日に至っています。現地に行ってコップ一杯の水を手渡すことはできなくても佐賀にいてそのお手伝いができるのは有難いことです。

たった一口のきれいな水さえ飲めないまま、5歳の誕生日を迎えることなく命を落とす子どもが当時は2秒に一人の割合でいました。様々な関係の皆さま方のご支援をいただき、今ではそれが半分以下になりました。皆さま方のご支援ご協力のお蔭で確実に成果を上げていますこと、心から感謝申し上げます。

しかし、まだまだ世界の子もたちを取り巻く課題は山積しています。

これからも、スタッフの皆さんと一緒に力を合わせて一人ひとりの持ち味を繋ぎあわせた「パッチワークパワー」で、20年を大きな節目として、更にユニセフ支援の輪を広げられたらと思います。

新たな一步を踏み出す佐賀県ユニセフ協会に、あなたもご参加くださいませか？

日本ユニセフ協会賛助会員募集!!

日本ユニセフ協会賛助会員とは？

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類や期間について… 3種類の会員があります。

1. 一般賛助会員 1口 5,000円
2. 学生賛助会員 1口 2,000円

※有効期限はどちらも入会月から1年間で、ご退会のお申し出をいただくまでご継続となります。

3. 団体賛助会員 1口100,000円
※ 団体賛助会員は企業、団体、有志のグループなどが対象です。
期間は、1年ごとの更新になります。

◎ 公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。

学習講師ボランティア募集!!

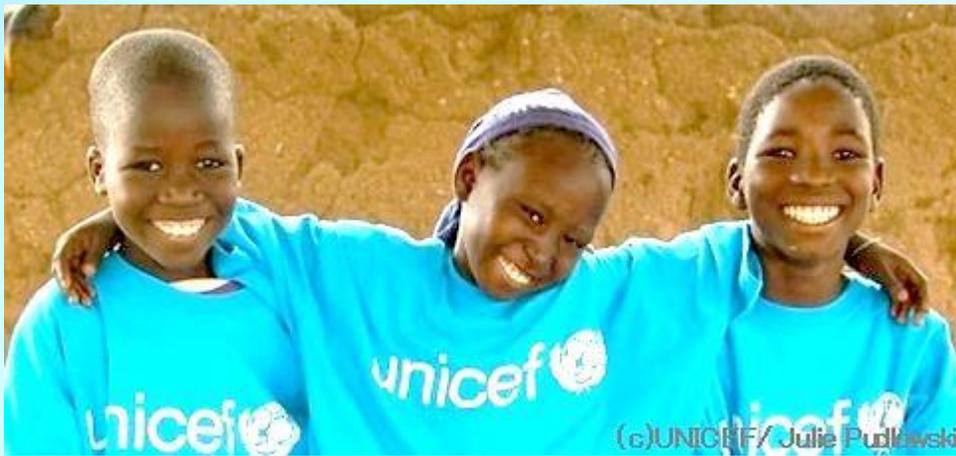
佐賀県ユニセフ協会では、学習講師ボランティアを募集しています。

身近なことから考える世界とのつながり。

世界の子どもたちのこと・命・環境・平和など…、ユニセフを通して世界の問題にも目を向けられる子どもの育成を、あなたもお手伝いして下さいませんか？

まずは事務局までご連絡を！（TEL&FAX 0952-28-2077 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp）





(c)UNICEF/ Julie Pudlowski

© UNICEF/ Julie Pudlowski



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会

〒840-0054

佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号

TEL&FAX 0952-28-2077

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

unite for
children

unicef 